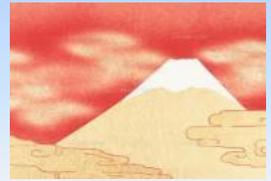


# 富士河口湖町立 教育センターだより

No.21



平成27年12月18日 文責 中澤 敦子



二学期も残すところ一週間となりました。子ども達は間近に迫るクリスマスやお正月への喜びや期待に胸が躍っていることでしょう。一方学校は、授業のまとめや冬休みの準備、進路指導等、忙しい日々を過ごしています。そんな12月10日、第4回富士山学習研究会では小立小学校の小川貴史先生に授業公開をしていただきました。



この授業は、①富士山は場所によって見える姿が少しずつ異なり、それは富士山の成り立ちと関係があることを理解できる。②いろいろな場所から見える富士山の形を知ることで、自分たちの地域から見える富士山に愛着を持つことができる。を学習のねらいとしています。

授業の組み立てのポイントは、

- ・児童が自分の経験を生かしクイズ形式で富士山への関心を高めていけること。
- ・なぜ?の疑問を解決するため富士山科学研究所小石川浩先生とのTT授業を展開すること。
- ・ICT機器を利用し、視覚を通した学習を行うこと。です。

豊富な資料(映像)、子ども達の考えが整理され次の学習に反映される板書、ワークシートなど子どもの活動を確認する机間巡視、そのすべてが担任とゲストティーチャーの分担・連携によって進められ、子ども達は無理なく、そしてぐいぐい入り込み、富士山の成り立ちへと知識を広げていくことができました。噴火を繰り返し今の富士山があるという説明の中では溶岩流や火砕流の映像が流れ、怖さから防災の意識も刺激された子ども達です。富士山のことをもっと知りたい、今日の学習を家族に教えてあげたいと思う気持ちが子ども達の目の輝きから伝わってくる一時間でした。授業の最後には校歌の歌詞にも触れました。雄大な富士に負けない理想を持ちしっかり頑張っていこうと、小立小校歌を歌うたびに子ども達の気持ちも引き締まることでしょう。

富士の麓に生きる私たちの周りで「富士山学習」が叫ばれて久しく、富士河口湖町でも富士山学習研究会を中心に各校で実践が積み重ねられています。今回の授業は、町内の高学年担当の先生方に、より学習計画を立てやすいようにとの意図を持ち、富士山科学研究所と連携しながら、TT授業という形で提案されました。手軽に実施できる富士山学習授業として各校でも来年度実施していただけたらと感じました。

